

2. 認知症地域支援推進員

※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願ひします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
2. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
4. その他（ ）

(千葉県 松戸市)

2. 認知症地域支援推進員

【認知症ケアパス】

認知症地域支援推進員は、認知症ケアパス検討会に出席し、認知症ケアパスの更新作業を認知症コーディネーターとともに行いました。市民にわかりやすいパンフレットをめざし、従来のパンフレットに加え、概要版を新たに作成し、広く住民に周知しています。

【認知症の早期把握及びケアマネジメント】(資料3-①②)

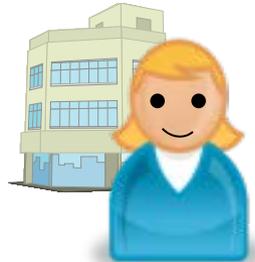
また、平成28年10月より、医師会・薬剤師会の協力の下、地域包括支援センター・医療機関・薬局・介護事業所の参画を得て、厚労省モデル事業「医療・介護連携に基づく認知症の早期把握及びケアマネジメント」の一環として、「認知症を予防できるまち♡まつどプロジェクト」を開始し、軽度認知症を早期に把握し、かかりつけ医など受診や介護サービスの導入、セルフケア支援を行い、認知機能の維持・改善を目指しています。

各実施機関で、認知症と診断はされていないが、認知機能低下が気になる方に対して、DASCを用いたアセスメントとマネジメントを実施し、初回のマネジメントから2か月おきに3回のモニタリングを実施し、医療や介護サービスの導入の確認やセルフケアの進捗を確認し、半年間伴走する事業です。昨年度は、21機関が参加し、91件の支援を実施しました。今年度は居宅介護支援事業所や通所介護事業所等実施機関を拡充し、事業を展開しています。

まつど認知症予防プロジェクトの基本コンセプト

資料3-①

- 認知症の早期支援に関しては、軽度認知症の把握ができていない、医療機関に受診できていない、セルフケアができていないなどの課題がある。
- まつど認知症予防プロジェクトを通じて、これらの課題を解決し、認知症予防を推進する。



実施機関の専門職

- ・ 地域包括支援センター
- ・ かかりつけ医療機関
- ・ かかりつけ薬局
- ・ 介護事業所
- ・ ケアマネ事業所

①早期把握・アセスメント

アセスメントツール：
DASC

②ケアマネジメント

適切な対応につなぐ

- ▶ かかりつけ医など受診
- ▶ セルフケア
- ▶ 介護サービス

③モニタリング



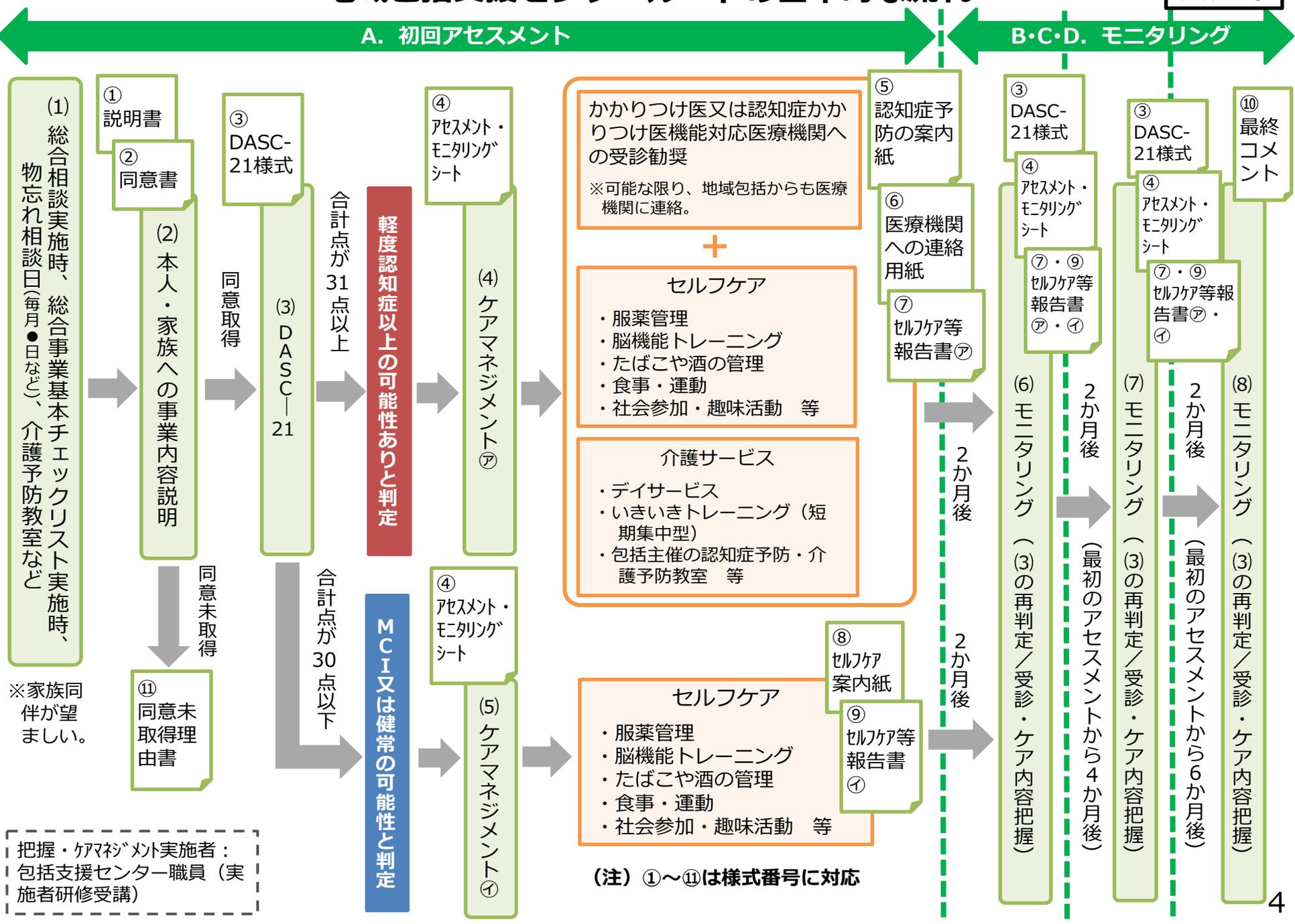
軽度認知症
の方

認知機能の維持・改善

※システム構築に当たって、医師会・薬剤師会・特別養護老人ホーム連絡協議会・介護支援専門員協議会・通所介護事業所連絡協議会等の関係団体と緊密に連携。



地域包括支援センタールートの基本の流れ



※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願ひします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
- ② 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
4. その他（)

(千葉県 市川市)

認知症地域支援推進員による地域ネットワークの構築と活動

目的：認知症サポーターが自分の生活圏域で活動できる仕組みをつくることで、地域住民への普及啓発、認知症になっても周囲との関係が途切れない地域をつくる。

取り組み対象：認知症サポーターとボランティアに関心のある地域住民。

取り組み方法：①認知症サポーター養成講座受講者に対して、1週間後にステップアップ講座を行う。

②ステップアップ講座の参加者アンケートにより、ボランティアに関心のある地域住民を見つけ出す。

③参加者アンケートより「興味のある」と回答した住民に案内を郵送し、「ボランティアミーティング」を開催。3か月に1回、計3回行った。

地域住民として必要と思われること、自分たちでできることなどを話し合い、具体的なことを2つに絞込み、具体的な計画を立てて、取り組んだ。

取り組み結果：

①グループホームでのボランティア

5人程度のグループで、メンバー内で話し合い、実践した。活動報告を行い、次の取り組みへの学びの機会とした。

②地域包括支援センター主催の認知症カフェでのボランティア

認知症カフェのセッティング等の準備から話し相手、認知症の方や家族と一緒にできる指体操、脳トレ等、常時8名が月1回活動している。

*適宜行数を増やして作成してください。

※市区町村認知症施策担当者各位

下記について、提供頂ける情報がありましたら、既存資料でも結構ですので、どうぞよろしくお願ひします。

関東信越厚生局
地域包括ケア推進課長

認知症対策好事例

1. 認知症初期集中支援チーム
- ②. 認知症地域支援推進員
3. 認知症カフェ
4. その他（ ）

(長野県 下諏訪町・佐久穂町・上田市・東御市・岡谷市)

下諏訪町

- ・下諏訪町認知症地域支援協議会が発足し、推進員以外の他職種による協議が出来るようになった。
- ・町内 40 歳以上の方に認知症に関わるアンケートを実施・その結果を町民とともに座談会に検討して行く予定・地域に出向くための基盤整備が出来た。
- ・本人・家族以外からの相談窓口の明確化（地域住民や金融機関等）

佐久穂町

- ・これまで実態把握がされていなかった未介入者への介入が増え、サービス利用や対象者・家族、関係者への支援体制の構築につながっている。

上田市

- ・認知症に関する困難事例への対応が強化された。(直接的なケース対応のみでなく、医療機関との連携や包括支援センター、ケアマネジャーの支援等のコーディネートも行う。)
- ・窓口での認知症に関する相談の対応が強化された。

東御市

- ・ 認知症の方を介護している家族同士が自由に情報交換できる場として家族会を立ち上げた。
- ・ 家族が対応に苦慮しているケース等に関わり、本人や家族に病気についての理解を促したり、情報提供を行い、必要に応じて適切な機関につなげた。
- ・ 各地区公民館で、もの忘れ外来医師による認知症講演会を開催し、住民に対して病気の理解・啓発活動を行った。
- ・ 認知症サポーター養成講座の開催を市内のスーパーやコンビニ、銀行等に呼びかけ、地域で認知症の方を支えていくための理解や協力をお願いした。
- ・ 家族向けの認知症サポーター養成講座を行い、こういった地域であればもっと住みやすいかを家族と率直に話すことができ、本人・家族が地域に求めていることを把握する機会となった。
- ・ 認知症カフェなどでボランティアとして活躍してもらうことを念頭に、認知症サポーターの中でさらに認知症について理解したい方やお手伝いしたい方を募った。

岡谷市

- ・ 役割が明確になっているため、認知症の地域課題に対して取り組みやすくなった。
- ・ 推進員の配置について、講演会や広報、新聞、行政チャンネル等で周知したことで、誰に相談したらよいか分かり、実際に推進員を尋ねて相談者が来るようになった。
- ・ 推進員の活動を通して、当事者の声や家族の声が聞けるようになった。

* 適宜行数を増やして作成してください。